

2016年度決算報告

学校法人京都橘学園の2016年度(平成28年度)決算は、2017年5月29日の理事会及び評議員会で承認されました。

経常的な収入である教育活動収入、および教育活動外収入は、2015年度(平成27年度)と比較して3億7,205万円の増加となりました。

収入の大部分は、大学・中高の学生生徒等納付金で、経常収入の82.7%を占めており、健康科学部救急救命学科の開設による学生数の増加、および既設学科の入学定員増等により、前年度比較で106.1%となっています。

国及び京都府等から交付される補助金の事業活動収入に占める割合は10.8%で、平成24年度に開設した健康科学部が完成年度を超え、経常費補助金の対象となり、前年度対比では112.9%の増加となりました。

支出面では、経常的な支出である教育活動支出、および教育活動外支出が前年度より3億5,447万円増加しました。人件費では、新学科開設および入学定員増等による教職員の採用を行い、管理経費では、2018年度開設予定学科の広報費が増加したことが主な要因となります。

経常収支差額は前年より収入・支出とも増加しましたが、例年と同水準で推移し、教育活動以外の特別収支を加算した基本金組入前当年度収支差額では12億0,063万円を計上しております。

本学園では2014年度に2022年までの長期ビジョンと2018年までの中期プランからなる第1次マスタープランを発表しました。

このマスタープランのもと2016年度は、中学校・高等学校において教室の改修工事を行い、大学においては、既存教室棟の機能向上を目指し改修工事を行いました。また、2017年度新教室建設に向けての建設仮勘定を計上しております。

基本金組入については、上記の施設設備面の充実に伴う第1号基本金の組入を行い、将来に向けた施設設備整備のために第2号基本金、さらに、京都橘大学奨学基金への寄付に伴って第3号基本金として組み入れました。

これにより、2016年度は1億6,935万円の支出超過となり、繰越支出超過額は18億5,171万円となりました。

私立学園を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況にあり、平成28年度版今日の私学財政(日本私学振興・共済事業団)によると、事業活動収支差額がマイナス(帰属的な収入で消費的な支出が賸えない)の学園は全国で198大学法人(36.1%)となっております。

こうした状況にあって、本学園の経営状況を示す事業活動収支差額比率は15.3%と、全国の大学法人平均4.7%(平成27年度)より高い水準を保っており、現状においては、依然安定かつ健全な経営状態であるといえます。